

山行報告

大江山縦走

日 時：9月23日（火・祝） 総括リーダー：砂川(延) 参加者数：35名

参加者：A班 L：今山 SL：尾内

川鶴・高橋・田中・長谷川（孝）・藤田・丸岡・三木

B班 L：舩賀 SL：松尾（美）

大瀬・貝塚・北川・砂川（美）・塩津・須増・中嶋

C班 L：山本 SL：待場

阿蘇・金島・河合（信）・切貫・清水・船津

D班 L：渡邊 SL：西村

内海・尾越・河合（由）・荘所・竹内・前田

コース：A班・B班 高砂運動公園7：30～福知山ジャスコ9：50（トイレ）10：05～

大江青少年グリーンロッジ 10：30（ストレッチ）11：00～林道終点 11：30～登山道途中
12：3（休憩）12：35～鍋塚 13：10（昼食）13：35～鍋塚休憩所 14：05（トイレ）14：10
～鳩ヶ峰 14：35（展望）14：40～大江山 15：10（展望）15：20～鬼嶽稻荷神社～バス待機
場所 15：50（乗車）15：55～大江青少年グリーンロッジ 16：10（ストレッチ）16：16：25
～根日女の湯 18：30（入浴）19：15～高砂運動公園 20：00

コース：C班・D班 大江青少年グリーンロッジまではA・B班と同じ。～バス待機場所 11：00
（ストレッチ）11：15～鬼嶽稻荷神社 11：20（トイレ）11：25～大江山 12：00

（昼食）12：22～鳩ヶ峰 12：50（休憩）12：55～鍋塚休憩所 13：13（休憩）13：20
鍋塚山 13：50（展望）14：10～鍋塚休憩所（林道終点）14：35～大江青少年グリーンロッ
ジ 15：50（ストレッチ）・（16：10A・B班と合流）～帰途はA・B班と同じ。

★ 鬼伝説の大江山に登って

A班 藤田

仕事で6年間豊岡に単身赴任していた頃、三田に本社があったので、出石から国道426号線を通り、登尾峠、三岳山の麓を通り福知山に出て三田によく通った。途中、大江山方面と書いてあり「ああ、鬼伝説の大江山か。一度登ってみたいなあ」と思っていた。図らずもこの度、高御位山遊会で登ることになり、勇んで申込み、楽しみに参加した。

大江山の、山の家に着いてバスから下りるとひんやりとした涼しさ。もう秋も近いなあと思いながら林道を登り始めた。少し歩くと酒呑童子、源頼光の鬼退治、鬼瓦など次々に鬼に関するモニュメントが現れた。いかにも鬼の大江山と言う感じ。大きな鬼瓦なので帰って調べてみると、高さ5m、重さ10トンもありギネスブックに載っているとのこと。鬼伝説にふさわしい。舗装した林道を歩くこと約10分、舗装した道が終わり、山道に入った。クマササが生えて道が分かりにくい。途中ツキノワグマの生態調査のおとり？が道の途中にあり、余計に迷う。途中からクマササが多くなり道が分からなくなり、道なき道を藪漕ぎする。



腕でクマササをかきわけ、それを足で踏みつけ後続の道を確保しながら登る。腕の力、踏みつける足の力を余分に消耗しながら登るので、汗はかくし息が上がってグロッキー寸前になったが、藪漕ぎが30分ほどで終わってやっと尾根に出る。右前方に鍋塚がみえ奈良の若草山を下から見たときの様で格別美しく思えた。苦勞して登ってきたせいかな。約10分尾根歩きをして鍋塚の頂上に着いた。頂上から東を見ると霞んではいるが天橋立湾が見え西にはこれから登る大江山が見える。約30分程で食事を済ませ、あわただしく大江山に向かった。おなかが満たされたことと、リュックが軽くなったことで、足取りは軽やか。トイレ休憩、鳩が峰を経て1時間半で大江山に到着した。薄曇りで全体に霞んで見えるがなかなかの良い眺め。晴れていたらなお良い景色だろう。麓を良く通った三岳山も見える。一度登ってみたいと思いながら15分ほど休んで鬼嶽稻荷神社に向かった。

木立の中にはいると、3時半でも薄暗い。この辺りだと晩秋の様な感じ。下りのペースは速く意外に早く神社に到着した。いかめしい名前の神社なので、大きなところかと思ったが、以外にこぢ



んまりとした神社だった。後はどんどん進んで迎いのバスに到着して、ストレッチをしてバスに乗り込んだ。

C、Dチームと合流して風呂に入る段取りであったが。風呂が既に終わっていたため、根日女の湯まで足を延ばし筋肉をほぐした。高砂運動公園に8時05分に帰着。車運転のため、我慢していたビールを帰宅後ぐいと飲んで大江山登山を終了。大江山より藪漕ぎが思い出に残った楽しい山行でした。

★ 大江山山行に参加して

B班 中嶋

大江山は丹後半島の付け根に位置し、酒呑童子伝説で知られており、また国定公園に指定されています。京都府内の山行は青葉山以来なので喜んで参加しました。秋晴れの良い天気です。出発が少し遅れて7:35高砂運動公園を出る。途中の加西市で2人が乗車し総勢35名となり、中町、山南町を経由し福知山で休憩を取る。大江山グリーンロッジまで行き、ここでA班(10名)、B班(9名)が下車した。ストレッチ体操後、A班先行、B班は舩賀リーダーを先頭に出発した。道路沿いには、赤鬼、青鬼、源頼光一行のオブジェがあり、また博物館前には大きな鬼瓦があった。林道隣山線のアーチ下を通り終点まで和気あいあいと話しながら歩く。これより山道となり笹が生えた林間を登る。暫く進むとツキノワグマの生息調査用のシカケ(上に蜂蜜に入ったビンをぶら下げ、下は鉄条線で組んだ箱が置いてある)を2~3見かける。近くの木に何かが設置されており顔を近づけるとカメラでフラッシュが光った。熊の生息地であり注意する必要がある。時折、道の所々の木に赤テープが巻いてあり、行程が正しいことを確認して進む。道は少し踏みこまれた跡が続いていたが、だんだんその形跡もなくなり、先頭では時々止まって道を探しながら進んでいる。その後赤テープも見失い、檜木もなくなると一面背高の笹となり完全に道がなくなった。鍋塚山の頂上が右側近くに見える、真上に登れば尾根道に出ると思われるので25分間ヤブコギする。笹の上、木の枝等注意して進む、一段と高い笹やぶを抜けると広めの道に出た。側に、鍋塚山まで500mの標識がある。整った道が続いており歩き易い。13:05頂上(736m)に到着、昼食を取る。頂上から展望がきき、加悦町、野田川町の家々や田畑が見えるが日本海は霞んで見えなかった。これよりUターンして大江山へ笹の原の稜線を下る。すぐC、D班と出会い歓声を上げて分かれる。14:10休憩舎とトイレがある林道の駐車場に到着、車が2台駐車していた。又2人連れの登山者と会う。これより林間の上りとなり25分で鳩ヶ峰(746m)に、先行していたA班と合流休憩する。ここから少し下り、その後登りとなる。登りはやや急になり、丸太の階段を踏みしめて登りきった所が千丈ヶ嶽(大江山833m)である。ここからは宮津湾、丹後の山々、遠く氷ノ山も見えた。休憩後、話しながら丸太の階段を下る。途中の鬼の洞窟は寄らず鬼嶽稲神社に到着し、そのままマイクロバスの所まで歩く。ストレッチ体操後、C、D班の待つ大江山グリーンロッジに向かった。本日は風呂が早仕舞いのためなく、加西の“根日女の湯”で入浴し帰路に着いた。楽しい山行を有難うございました。



★ 大江山も完遂 バンザーイ・バンザーイ

C班 切貫

座学終了後、初の遠出、嬉しくて即参加の決心、でもその後の自主トレでリタイアした時、不安に・・・「暑い時だったから」と皆に勇気づけられたのと大江山に興味があったので挑戦する事になりました。勉強会で大江山の説明を聞いた上に綿密な計画書を手にしたときは、いたれりつくせりの会に入会出来た事を誇りに思いました。登山は、A・B班とC・D班の2コースに別れA・B班は、グリーンロッジから私のC・D班はそこからバスに乗った



まま鬼嶽稻荷神社近くで降りて荘所さんの奥さん手作りのお菓子で元気を付けて栗、栃の殻が落ちている杉林の中を「こちらのコースは得や」等わいわいがやがやと楽しい会話をしながら雲海に見える鬼嶽へ、その後、階段を登って大江山に到着、里山を見ると山に囲まれた集落と区画された田には、緑、黄色の稲と刈り取られた後の土色がみごとなコントラストで思わず「ヤッホー」と叫んでいました。大満足の後、鳩ヶ峰へこの頂上から鍋塚に向かってA・B班の人達を「居た」、「居ない」又出発後も声がする度に「来た、来た」「違った」「おかしいもう会っても良いのに」等の会話後は、リーダーの山本さんが何回も後を振り返る位静かになりました。休憩所からは、又「出合わない」等の会話が始まり鍋塚から長い列で降りてきているA・B班を見ると嬉しい歓声が私も多数参加なればこそその醍醐味だと感激で胸があつくなりました。鍋塚では、日本海を見ながらのおにぎりの美味しかった事、その後車道を歩いて合流のグリーンロッジへ楽しみにしていた♫は休業の為、バスに乗って帰路へ。バスの中では、昔なつかしい歌を川鶴さんの美声と一緒に合唱しているとあっという間に根日女の♫へ、♫で汗を流すと身も体も軽くなり幸せを痛感した一日でした。皆さんそして手作りのお菓子を作って下さった今山さん、荘所さんの奥さん

有難う thank you Obrigada カムサハムニダ

★ 大江山山行に参加して

D班 前田

今日は、大江山山行であるが、何の準備もしていない、4時30分に起床天気予報は日本海側午後下り坂との事、雨具とまだ残暑厳しく飲み物を2L・着替えをザックに入れ準備完了、6時15分到家を出発。途中でコンビニで昼飯をゲットし高砂総合運動公園に7時前に到着、15人ほど集合していた。皆元気、早速、会費¥3000を徴収され予定より少し遅れたが7時35分に出発、途中根日女の湯前(8:15)加西組二人を乗せ、いざ鬼に会いに丹後・大江山に出発。

バスの中で会長より挨拶があり、AB班は大江山の家―鍋塚―鳩ヶ峰―大江山―鬼嶽稻荷神社 C D班はその逆の山行コースと説明あり、私はD班で鬼嶽稻荷神社に11時15分に到着、荘所さんの奥様手作りのお菓子を頂きストレッチをして11時25分に出発、頂上迄1.1Km木の階段を登り少し汗ばむ程度で千丈ヶ嶽(大江山 832.5m)頂上に12時に到着、天気が良く見晴らしも最高で10~11月には運がよければ雲海が見えるそうで、雲海を想像しながらの昼食を摂り、12時20分に出発鳩ヶ峰に向かう道はころ石が多く足元を注意しながら歩く、12時50分に到着、北東に鍋塚が見え途中遊歩道脇の熊笹が刈り込まれ手入れが大変だと思いながら、

「ききょう」「リンドウ」他知らない小さな花に出会い心が和む、しかしA・B班と出会はないと言いながら進み鍋塚休憩所13時12分到着、トイレ休憩後13時20分に鍋塚に向かう。途中でA、B班と出会う。熊笹の中、道なき道を掻き分け、掻き分け登ったそうで会長よりC、D班は車道を下りよう指示される。鍋塚に14時到着四方山で今日登った山しか分からないが北方に宮津湾の一部が少し見える、空が曇ってきたので少し早いが降りる事に、鍋塚休憩所(14時35分)より車道を歩き酒呑童子の里に16時到着、登山靴での車道歩行はきついものがあった。記念撮影し16時30分に帰路に着く、バス中では川鶴様の歌唱指導により楽しい一時を有難うございました、早く帰ってビールが飲みたいと言う意見もあるなか、根日女温泉でさっぱりして高



砂運動公園に 20 時到着、解散する。又雲海の見える時期に登りたいものだ、有難うございました。

兵庫の山からゴミを一掃する運動（再度山・修法ヶ原）

日 時：10 月 5 日（日） L：山本

参加者数：18 名

参加者：上田・河合（由）・北川・切貫・砂川（延）・砂川（美）・田中・中嶋・舛賀・待場・三木・今山・松下・澤田（卓）・澤田（律）・一般参加者（2 名）

コース：J R 元町駅 9：10～諏訪山 9：30（ストレッチ）9：40～碓山 10：20（休憩）10：25

～二本松～大竜寺 11：45（昼食）修法ヶ原 12：40～再度公園（集会）12：45～14：00～

櫻茶屋 14：35（待ち合わせ）14：45～布引公園 15：05（ストレッチ）15：25

～新神戸 15：38～三宮 16：00（解散）

★ 六甲山ゴミ拾い完遂 バンザイ・バンザイ

切貫

楽しみにしていた六甲山でしたが、朝から雨だったのと、外出が続いていた為、体がだるく行くか迷い誰かの行くと言う言葉を聞きたくて会長に電話をかけると「行く」との返事を聞き迷わず行く事にしました。集合場所へはいつも通り 30 分前に着くと来ている人の顔を見て元気が出ました。雨は降り続いていただけ暑がり屋の私は傘をさして出発、県庁そして昔なつかしい相楽園前を通過して諏訪山神社でストレッチをした後、カップを着て火バサミとゴミ袋を持ちゴミ拾いの体勢で出発、ビーナスブリッジ迄は私のゴミ袋は空なのに会長を始め男の人達は、雑草の中へ入ってゴミ拾いをしておられる姿を見てわたしも頑張らなくてはと思いました。ビーナスブリッジ、市章山では港神戸の街の景色が天気だったらどんなにか良かったのにも思いましたが、雨でも私には充分満足でした。 集会の森の広場の途中では、谷底に車で持って来たと思われるタイヤ、ゴミ類が捨てられて



いたのは、あまりにも沢山だったので写真を事務局へ送る事にしました。そして楽しみの昼食は大竜寺で、今山さんのお弁当は大好きな鯖寿司、顔に欲しいと書いてあったのか私のお弁当箱へ 2 ケも入れて下さりラッキー、今山さんの奥さん有難う。

ゴミを渡す森の広場では、私のゴミ袋もゴミが入っており少しは役にたったのではと思い記念品のタオルを頂き雨の中 561 人もの人達での祭典に参加、2 時間半の話を聞いている間は動かないので、暑がり屋の私でも寒くなり短縮されたのは嬉しかったです。終了後は足取りも軽く修法ヶ原池、布引貯水池そしてみじの繁っている中を雄滝、雌滝を見ながら新神戸駅へ。地下鉄で三宮まで行き、解散後、主人の待っている所へ無事帰りました。毎回始めての所ばかりで行く前から嬉しく、そして期待を裏切らない所ばかりで今回のコースも、とても満足しています。天気の日にもう一度必ず行きたいです。皆さん有難う。



会員だより



馬肥ゆる秋、とはよく言ったもので最近食欲がやたらあります(^_^;)でも気にしな—い、気にしな—い！よく食べて、よく働いて、よく動けば問題なし！年末に向けて忙しくなっても、この食欲で乗り切ります♪(*´▽`*)ノ

荒木

八ヶ岳の思い出に、夏山山行で重いザック（15キロ超）を背負って3時間程登りバテ気味で行者小屋に着き、翌日には阿弥陀岳の急な岩場の登り下りに悪戦苦闘、硫黄岳方面行きと地藏尾根下山への意見の分かれや、地藏尾根下山途中滑落遭難事故でのヘリコプター救助に遭遇したり、等が思い出されます。

白くま二郎